

いま保険とは何かを考える

駒沢大学 石名坂 邦 昭

このたびのテーマ「いま保険とは何かを考える」について、多種多様のアプローチの方法がある。保険学は古い歴史を持つ学問であり多くの論議がなされてきた。われわれ報告者は何度か会合を持ち論議を重ねてまいりました。その中で、われわれ共通の認識として、「いま」をどう捕らえるかが問題となりました。われわれは、「いま」を現在も含めた「近未来」と解釈しました。「保険とは何か」については、報告者の専門分野からアプローチしてもらうことになりました。第一報告は「保険と共済の〔環境〕について」早稲田大学の江澤先生がおこないます。共済は、大規模共済を念頭において、相互に助け合うという精神で保障を行うという立場から報告されます。東北学院大学の梅津先生には「保険契約の法的性質再考について」報告をいただきます。同様に、法律的立場から「横断的投資サービス法制度に関する一考察」－生命保険金融商品として規制すべきか－について日本生命の松沢氏に報告をいただきます。損害保険の立場からは、MSK基礎研究所の後藤氏が「差異が縮小するリスク・サービス産業」－資本市場における保険と金融の進展－のテーマで報告をいただきます。生命保険の立場からは、キャピタスコンサルティングの森本氏に「昨今の国際的動向から保険商品を再考」について報告をいただきます。

古くて新しいテーマであり、大変困難な作業ではありますが、一人ひとりが真剣に考えていかなければならないテーマであると思います。活発なご討議をお願いします。